

お客様とともに (品質・顧客満足・取引先)

品質保証体制

THKは、お客様に、安心・安全な製品をお届けするための取り組みを行っています。

お客様のグローバル化に伴い、THK製品は世界各地に出荷されています。そのため、[洗浄][防錆][梱包]の三位一体管理を行い、出荷時の製品品質を維持しています。

[洗浄]については、製品の清浄度及び洗浄液の管理規格を定め、製品に異物が残存しないように管理しています。

[防錆]には、社内規格に基づいた環境試験をクリアした、高機能で且つ地球環境に優しい防錆油と防錆フィルムを採用しています。



分析装置室

また、[梱包]にも社内規格を定め、落下・圧縮・振動等の各種試験に合格した梱包材を採用しています。

THK製品は、これらの総合的な品質管理のもと世界に出荷されています。

THKは、これからもお客様に、安心・安全な製品をお届けするために品質向上に努めていきます。



梱包箱の
圧縮試験の様子

プライベートショー

THKでは、国内外の様々な業界の展示会のみならず、地域密着型のプライベートショーを積極的に開催し情報開示を行っています。2013年11月には2日間にわたり甲府工場で、プライベートショーを開催しました。ものづくり現場を既存のお客様の他に、建設、官公庁、大学、国母工業団地会員等、今までとは違った多くの客層の方々にご来場いただきました。工場見学、技術セミナー、免震体験等を通じ、周辺地域の方々へもTHKの活動内容を広くお伝えすることができました。また、直接お客様の事業所内で、応用技術を中心とした展示会を随時実施しています。



ショールームでの製品説明

技能研修実施

2013年度より当社代理店、特約店様を対象に工場技能実習をスタートしました。初年度は3回開催し、12社から計16名の方々が参加されました。参加者には事前に製品基礎(理論)を、そして工場での製品の取り付け方や精度測定等(実践)を学んでもらいました。参加者からは、「今後はお客様に今まで以上のアドバイスが提供出来る内容であった」との評価をいただきました。今後は当研修をお客様にまで拡げる予定です。



工場実習



仕入先とともに

≫生産改革統括部の新設

THKでは、創業以来協力企業との相互発展を目指した取り組みを実施してきました。しかし各社がグローバル戦略を強化している中、THKもより深化したパートナーシップを築き、世界で戦える競争力を身に付けることを目的とし、2013年度生産本部内に生産改革統括部を新設しました。

生産改革統括部では協力企業と共に、加工方法の見直しや材料・部品の形状や材質の見直し等、互いの技術を結集させた改善活動を実施しています。

≫現地調達

海外のお客様の要求に迅速にお応えするため、またBCPや為替リスクを回避するため海外生産拠点では材料・部品の現地調達を進めています。2013年度は新たに中国に進出された取引先から材料や部品の購入を開始し、現地調達比率は大幅に躍進しました。2014年度も現地調達比率の向上を図るとともに、価格・品質の安定確保に取り組んでいきます。

≫VA提案制度

THK会を通じ会員企業様には経営方針や購買方針を理解いただき、より良い品質の製品を提供してもらう良好な関係が築けています。2013年度はVA提案の評価基準に納期、環境等の貢献度を追加し、取引先にとっても取り組み易い内容へと見直しを行いました。結果、2013年度に提出されたVA/VE提案の件数は、2012年に対し倍近く増加しました。提案内容も工程改善



VA提案表彰を受けた方々

に留まらず、製品改良にまで広がりを見せており、検討と採用が迅速に全社展開できるよう体制作りを行っています。2014年6月に開催されたTHK会総会では、多くの表彰が行われました。

技術交流会

THKは山口県職業能力開発協会主催のものづくり人材交流促進事業に賛同し、2013年9月に山口工場を研修会場として使用し、中堅技能者キャリア・アップ研修を行いました。当日は県内企業14社のものづくり現場で働く、中堅技能者の方々計33名が参加しました。

THKの人財強化の取り組みを説明し、社内技能学校での機械加工の基礎教育や検査の社内検定(機械検査)の実技試験の様態等を見学してもらいました。

その後、意見・情報交換の場を設け、各社が抱える仕事を進める上での部下指導や育成、生産性向上、技能伝承、品質向上等の課題についての前向きな質問が出され、それぞれについて質疑応答を行いました。

参加者からは、「得たものが多く参考になった」「自社で実践したい」等の意見が出され、当社としても今後のものづくりへの励みとなりました。

また、三重工場は2014年3月にカワサキロボット協会主催の「2013年度改善事例発表会」に参加し、「クロスローラーリング標準品旋削工程の生産性向上」というテーマで発表を行いました。約30社が参加し、他企業の改善事例を参考にさらなる職場活動の推進を図って行きます。このようにTHKでは他社との交流を推し進めることで、顧客満足度を高める努力を日々行っています。



情報交換の様子

Interview

—お客様の声—

免震・制震の先駆的な取り組みにTHK製品を使わせていただいています。

nikken.jp



構造設計部門 シニアエキスパート 技師長

大野 富男様

株式会社 日建設計

1900年創業。日本を代表する総合設計事務所として110年以上の長きにわたり、よりよい建築・社会環境づくりへの貢献を目指し、建築の設計監理、都市計画およびこれらに関連する調査・企画・コンサルティング業務等を手がけられています。

Q 貴社が免震装置に関心を持ったきっかけを教えてください。

私たち日建設計というより、建築設計業界全体が免震・制震に対する関心を高めたのは、阪神淡路大震災です。それまで日本の耐震は世界一と自負していましたが、阪神淡路大震災ではあれだけ大きな被害が出ました。その現実を目の当たりにして、従来の地震対策を超える免震装置やダンパー式の制震構造等がビル建築に本格採用されるようになりました。近年では、相当な比率で免震・制震が設計段階から導入されるようになってきました。

Q THKの免震装置について、どのように評価されていますか？

名古屋大学の福和先生（THK CSRレポート2012年版でコメントを頂戴しています）が地震計をあらゆる所に設置し計測した結果、名古屋地域では3~4秒周期の卓越する地震が多いことが分かりました。ところが従来の免震装置は周期が3~4秒の積層ゴムが定番で、地震が起きると共振する可能性があるという問題が発覚しました。さらにゴムは横方向の変形に限界があり、せいぜい数十センチしか対応できず、また大きな建物になるとゴムを大きくする必要があり、ゴム自体の剛性も上がってしまいます。免震の周期を長くし揺れを吸収できる製品を模索している時、THKさんの免震装置の情報を得ました。1メートル程度横方向のストロークを取れるため、採用可能範囲がはば広く、愛知県庁本庁舎のように古い建物を後付けで免震化する場合にも有効でした。この愛知県庁の免震化工事は、建物の耐震改修として非常に優れていると評価され、日本建築防災協会から表彰もいただいています。

また、「知の拠点あいち」という研究施設の建設では、建物の真下に活断層があるという特殊な立地でしたが、幸いにも断層が横ずれのものであったため、横方向の揺れに強いTHK製免震装置を採用することで問題をクリアすることができました。こうした特殊な条件に対応できる製品が他にないこともあり、免震・制震の先駆的な取り組みにTHKさんの製品を使わせていただくことがあります。

Q 今後、THKに期待することをお聞かせください。

免震装置は、実際に大地震でも起こらない限り、その機能や成果を正確に確認する方法がありませんでしたが、当社が設計を手掛け、2014年3月に名古屋大学内に竣工した「減災館」では、地震と類似の振動を強制的に起こすことが可能な造りになっています。今後、この「減災館」では、さまざまな実験が計画されています。その中で、想定しきれなかった問題が出てくることも考えられますので、実証実験で得られた課題や不具合に対し、免震装置のメーカーとしてTHKさんの方でも迅速な対応をしていただくことを期待しております。



減災館で使用されているTHK製品。外から内部構造が確認できる。

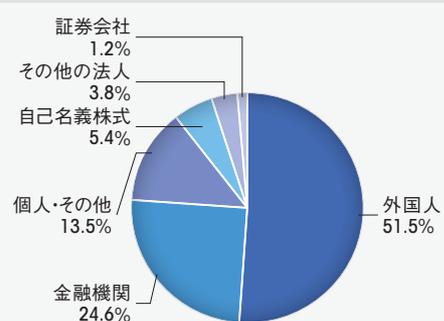
減災館外観

株主とともに

IRイベント

年2回の決算説明会では、社長自らが業績ならびに戦略を説明する他、質疑応答の時間を十分に設け、経営に対する忌憚のないご意見をお聞きしています。加えてスモールミーティングや個別取材等を通じ、より多くの投資家との対話に努めています。また、海外の機関投資家に対しても、電話会議による取材をはじめ、アメリカ・ヨーロッパの投資家を毎年定期的に訪問する等、国内外を問わずコミュニケーション機会の充実を図っています。

■所有者別株式分布状況 (2014年3月31日現在)



IRツール

投資家の属性や地域を問わず、適正かつ公平な情報開示に努めています。ホームページの「IR情報」において、法定開示書類はもちろんのこと、最新のプレスリリースやアニュアルレポート、インベスター・インフォメーション（ファクトブック）等、投資家の皆様にお役に立つ情報を開示しています。これらの資料は日本語、英語の2カ国語で開示しており、決算説明会の模様についてもビデオ配信しています。



アニュアルレポート

株主総会

「開かれた総会」を目指し、より多くの株主の皆様にご出席いただけるよう、1998年から株主総会集中時期を避けた6月中旬の土曜日に開催しています。加えて、取引先をはじめとしたステークホルダーにも当社の経営をご理解いただくため、会場には見学席を設けており、より多くの方々にご出席いただいています。

2014年6月21日に開催しました第44期定時株主総会では、約400名の株主の皆様にご出席いただきました。また、日ごろ目にする機会の少ない当社製品をより身近にお感じいただくため、例年、株主総会終了後に製品展示会を開催しています。本年は、半導体製造装置や工作機械等、ものづくりに不可欠な産業用機械をはじめ、新規分野として開拓を進めている免震装置、輸送用機器関連部品、3Dプリンターといった使用例を中心に展示しました。



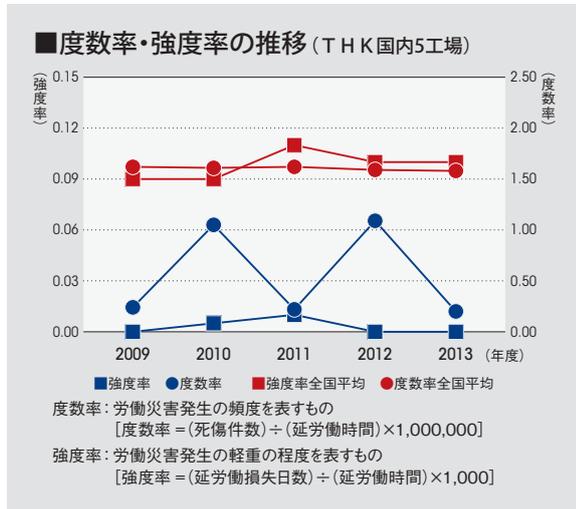
第44期定時株主総会



株主総会併催展示会

従業員とともに(安全・衛生)

度数率・強度率



THKでは従業員の安全な労働環境を実現するために様々な取り組みを実施しています。昨年度に引き続き「労働災害」と「交通事故」に対する従業員の関心と危機意識を高め、これらの撲滅につながることを目的として、2013年12月15日(日)～2014年1月15日(水)の期間を「年末年始無災害運動月間」と決めました。

また、工場をはじめ各事業所では安全を促すポスターや標語を掲げ、従業員への注意を促しています。

今後も従業員の健康をサポートし、安心・安全な職場作りを推進していきます。

社員手書きのポスター
三重工場



T……たるんだ心に今一度
H……広げる安全
K……快適職場

事業開発統括部

ストレスは
心と体に 倍返し!!

技術開発第一部

ちょっとだけ
置いたつもりが 物置き場

技術開発第二部

安全標語
テクノセンターにて

消防への取り組み

2013年10月初旬に、THK遼寧は大連政安消防宣伝センターの講師を招いて、全社員を4グループに分けて消防安全訓練を行いました。また、下旬には寮棟での避難誘導、初期火災の消火、救護、消防器材の使用について訓練を行いました。

12月にはさらなる消防への安全啓蒙意識を高めるため、部門毎に消防安全知識コンテストの筆記試験と早押し形式のクイズ大会を行いました。工場内での火災は大事故につながる恐れがありますので、これからも各人の防災意識を高めていきます。



消火訓練

エコドライブ推進モデル事業所登録

山形工場は自動車事故を削減する取り組みとして、2013年10月から県が推奨する「エコドライブ推進モデル事業所」運動に参加しました。この運動は基本的に環境に優しい運転を促していますが、穏やかな発進をしよう、車間距離にゆとりを持つよう等、安全運転をすることで自動車事故の削減につながる項目が含まれています。

工場では、①守衛所にエコドライブ10のすずめを常備し車で訪問される方に配布、②工場入り口にエコドライブののぼり3本設置、③社内掲示板や朝礼での全社員への周知等を行い、安全運転への徹底を行っています。2013年12月には、山形県知事から「エコドライブ推進モデル事業所」登録証をいただきました。



エコドライブへの呼びかけ

従業員とともに (成長支援)

改善提案制度

製品、業務効率、品質、安全性、生産性、技術等の向上と改善を図るため、「改善提案制度」を設けています。従業員の創意工夫、現場の目線を大切に、改善活動を評価するこの制度では、提出された提案すべてが評価・表彰（1次表彰）され、賞金が与えられます。同時にその評価に対するポイント（2次評点）が付与され、このポイントを累積して一定基準を超えるごとに、2次表彰が受けられる点の特徴です。

提案件数は、「当社製品の新市場の提案」や「製品の品質向上に関する提案」等、2013年度は11,065件にのぼり、引き続き、提案を奨励することで、単なる業務改善に留まらず、従業員の日々の観察力や自発性の向上にもつなげていきます。

■提案件数の推移と2次受賞者の数

	提出件数 (件)	受賞数 (名)
2011年度	11,840	352
2012年度	11,871	331
2013年度	11,065	278

技能向上への取り組み

THK新潟では、社員の多能工化を図るため、社内資格制度を設けるとともに国家技能検定の取得に力を入れています。

社内資格制度では、現場作業の基礎となる測定技能を確実に習得させるため、新入社員や異動者を対象に、ノギス、マイクロメーター、ハイトゲージ、ブロックゲージの使用方を指導し学科試験を行うとともに、テストワークを使って21ヶ所の測定を行う実技試験を実施しています。合格者には社内認定者資格とバッジが授与され他の社員の指導にあたります。このように確実な測定技能を習得した上で多能工の育成を図り、誰もが流動的に複数の作業を行うことで、安定した品質の確保とリードタイムの短縮に努めています。

国家技能検定については旋盤、マシニングセンタ等、各種機械加工の技能向上を図り、より良い製

品をお客様にお届けすることを目的とし、技能士資格の取得に向けテキストの貸与や練習用のワークを提供する等様々なサポートを行っています。その結果、2013年度は23名の技能士が誕生し、中には新潟県内で第一位の成績を収め県知事表彰された社員もいます。

今後も社員の技能向上を図り、心のこもった高品質の製品をお客様にお届けしていきます。



左:指導員 吉田 夏美
右:受講者 土田 知佳



社内測定検定1次と2次認定者バッジ



県知事表彰を受けた
製造第4課 畑山 和哉

eラーニング

社員教育の一環として、インターネット環境があれば、時間や場所を問わず社員が自己啓発のための学習が可能となるeラーニングを導入しています。主な内容としては「ビジネススキル」や「製品知識」等に加え、昨今重要視されるコンプライアンス関連の内容を拡充しており、2013年度は「コンプライアンスドリル編（内部統制）」と「環境経営の基礎知識」の2つが新たに加わり、3月末現在で計45コースを受講することができます。

■eラーニング受講状況

	着手者状況			到達状況
	対象者数 (人)	着手者計 (人)	着手者率 (%)	着手コース到達率 (%)
2011年9月	2,130	1,212	56.9	73.1
2012年9月	2,049	1,192	58.2	73.2
2013年9月	1,951	1,181	60.5	74.0

従業員とともに (多様な働き方)

障がい者雇用への取り組み

THKでは本社・工場部門において障がい者雇用を推進しており、2014年4月1日時点の雇用率は2.24%で法定雇用率(2.00%)を上回っています。

具体的な取り組みとして、年に1回各事業所に訪問し、職場での就労状況および体調の確認等を行うことを目的に、障がい者本人と上長との面談を実施し、働きやすい環境づくりのサポートを行っています。

なお、障がい者の職業生活全般にわたる相談・指導を行なうための障害者職業生活相談員を本社ならびに主力工場において選任し配置しており、そのような中で昨年は、障がい者雇用推進活動の一環として、各事業所に配置している障害者職業生活相談員を集め、障がい者の支援手法および就労環境整備の拡充を図るため、また、情報の共有化、支援者の教育・育成を目的とした研修会を実施しています。

また、障がい者がより円滑に就労できるよう職場内外の支援ならびに就労環境を整える専門資格「第2号職場適応援助者(第2号ジョブコーチ)」を2014年6月に本社の社員が取得を予定しており、既に資格を取得している山口・岐阜工場の社員と合わせた計3名で、全社を3つのエリアに分けて迅速なサポートができる体制を図っていきます。

今後も健常者と障がい者が働きやすい環境づくりを積極的に整えていきます。

■障がい者雇用率推移 (%)

2010年4月	2011年4月	2012年4月	2013年4月	2014年4月
1.66	1.80	1.89	2.01	2.24

VOICE 挑戦する気持ちを忘れずに／山形工場



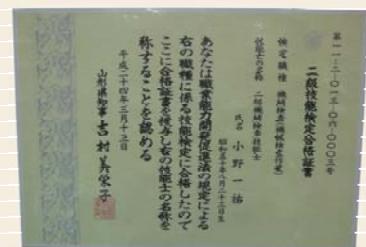
製造部 製造第二課
小野 一祐

学生時代は陸上競技の砲丸投げと800mで障がい者の大会で全国1位になったことがあります。体力には自信があったので、高校の先輩の勧めもあってTHKに入りました。入社当時から組み立て業務を行っており、2013年には国家技能検定(機械検査作業2級)を取得しました。また、2014年には勤続17年および模範的な勤務態度が評価され、山形県知事より感謝状をいただきました。

私の高校時代の友人の多くは、職場の方とのつ

きあいがかよくいかず転職をしています。でもTHKの方々は障がい者に理解を持って公私にわたり接してくれるので、この度の感謝状は皆様のおかげで取れたのだと思います。

今後は組み立て以外の作業を経験し、資格を取得したいと思います。また、THKでは数多くの障がい者の方が働いていますので、他の方がどんな作業をしているのか実際に見てみたいとも思います。今後も挑戦する気持ちを持ち続けTHKで働いていきます。



検定合格証書



新製品アイデアへの取り組み

全従業員を対象に「乗り物（自動車・航空機・鉄道）で

- ①あったら良いなと思う
- ②お客様からご要望のあった

案内機構を使ったものをテーマにした新製品アイデアを募集しました。

今回の新たな取り組みとして、提出されたアイデアの中から市場ニーズがあるものを開発部門と事務局が分析し、コンセプトを汲んだ試作品を作ることを前提にしました。

その結果、応募総数117件（営業系23件、生産系26件、本社16件、技術系47件、事業部5件）が提出され、その内2件が試作品として具現化されました。

創造開発型企業としてお客様のご期待に沿うべく、今後は当アイデア募集を全世界の拠点の社員を含め行っていく予定です。

永年勤続表彰

THKでは永年勤続表彰を行っています。対象を10年毎とする企業が多い中、より多くの社員に対し永きにわたる会社への貢献を表彰したいという思いから、5年毎に表彰を実施しています。2014年度は579名が受賞し、記念品が贈呈されました。

■永年勤続表彰受賞者数推移（2010～2014年）（名）

勤続年	2010	2011	2012	2013	2014
40年	0	0	0	1	4
35年	10	11	14	17	16
30年	25	23	69	120	85
25年	139	129	54	85	101
20年	143	163	128	96	41
15年	146	177	92	167	70
10年	77	113	68	81	91
5年	84	167	161	177	171
合計	624	783	586	744	579

VOICE 重圧を乗り越えて／山口工場



左：山口南総合支援学校
進路支援部長

中野 周子様

中：製造部 製造第一課
須保 光朗

右：製造推進部 環境教育課
副課長

吉永 俊介

2010年度の藤本さん、2012年度の藤井さんと2年続けてアビリンピック「製品パッキング部門」で日本一となっており、今回山口県代表として同種目に出場する私は3連覇のプレッシャーを感じていました。ただし、休日を返上しての福祉事業所での練習や競技会前の猛訓練からくる自信、それに競技当日の多くの社員の方々の応援に後押しされ、無事優勝することができホッとしています。

THKは総合支援学校3年時に実習生として働

き、職場の雰囲気がすごく気に入ったのが入社動機です。今は外注加工品受け入れチェックを行っていますが、国家技能検定機械検査2級を取得し、組み立て作業に従事したいと思います。THKは障がいがあっても、チャレンジできる会社です。皆さん諦めないで、自分の夢を実現させましょう。

総合支援学校の中野先生からは、『須保君から優勝した時の第一声は、「僕を支えてくださった皆様に感謝します」でした。この言葉を聞いたことは進路指導を行っていく上で一番嬉しい言葉です。

今後も夢や目標の実現に向けてご指導をお願いします』とのお言葉をいただきました。

受け入れ作業



従業員とともに (地域社会)

寄付・募金活動

THKは社会貢献活動の一環として、自然災害発生時の支援金の提供を行っています。また、将来の日本のものづくりの発展に向けて、科学振興を目的とする団体への賛助金の提供、THKの拠点がある地域の催事への協賛を行っています。

■災害時支援金

H25.11	台風18号災害京都府義援金	日本赤十字京都
	台風26号災害東京都義援金(伊豆大島)	日本赤十字東京
	台風26号災害千葉県茂原市義援金	日本赤十字千葉
	台風30号災害フィリピン義援金	日本赤十字

■賛助金等

H25.7	日本赤十字活動資金	日本赤十字
H25.12	新日本フィルハーモニー交響楽団特別会員	新日本フィルハーモニー交響楽団
H26.1	公益財団法人日本科学技術振興財団賛助金	公益財団法人日本科学技術振興財団賛助金

阳光(陽光)之家表彰

大連THKでは障がい者の方が19名在籍し、各自が自身の夢を叶えるべく希望部署で働いています。社員は皆彼らと家族のように接し、身の回りの世話や業務上の指導をし、また公私にわたる悩み事を聞き解決に向け尽力してきました。この功績が評価され、大連市より障がい者雇用に前向きな10社中の1社として「阳光之家」企業表彰を受けました。この表彰については、2013年12月に大連新聞にも紹介されました。



右から4番目:大連THK総経理 大野 和重

VOICE 団結力に助けられました/西日本オーダーフルフィルメントセンター

青葉 淳二

2013年8月に島根県を襲った大雨の影響で私の実家は河川氾濫による土砂が台所・居間に流れこみ半壊しました。その災害に対し、福岡・福山・広島支店の方々がすぐに駆けつけてくれ、家屋内の土砂搬出作業を手伝ってくれました。搬出された土砂量は2tトラック5台分に達し、家電製品は全く使い物になりませんでした。

町と全国から集まったボランティアの皆さんが復旧作業に従事してくれた中、THKからは災害後3日間で延べ30人の皆さんが尽力してくれました。実家のある邑南町は年配者の方が多く、THKのように会社ぐるみで多くの若手が復旧応援に参加してくれたことに驚いていました。

土砂搬出作業に直接携わっていただいた方、人員を数日にわたり出していただいた会社の配慮に

は大変感謝しており、この場を借りて御礼申し上げます。



青葉理髪店、土砂流入一階住居部壊滅、土砂搬出救援作業
2013.8.24未明からの短時間の豪雨、私的台業(カンソク)で418ミリ、豪雨は谷を削り土石流となり、川は溢れ下流の家屋は床土まで土砂に埋まりました



土砂に覆いつくされた台所



ボランティア植樹活動

荒山を全面緑化させようという大連市政府の青山緑化プロジェクトに賛同し、大連T H Kの社員有志44名は2013年4月に砬子山植樹活動に参加しました。

当日は晴れで計150名ぐらいの有志の方が参加しており、全体で約500株（T H Kは約150株）の苗木を植えました。苗木が育ち緑で覆われるまでには、5年くらいかかりますが、後世の人達の憩いの場所となってくれればと思います。



植樹作業中

目指せJリーガー

私自身高校時代にラグビー部に所属し、体を動かすことが好きでした。子供が地域の小学生サッカーチームに入ったのをきっかけに、4年前からチームの



子供達に指示を出す
技術本部 技術開発統括部
技術開発第一部 部長 西出 哲弘

コーチを引き受け、併せて審判の資格を取得しました。毎週土日に多摩川グラウンド等で練習や他チームとの試合を行い、冬でも真っ黒に日焼けしつつ子供達の成長を見守っています。コーチ、審判を通じて学んだ、「戦略を考える」「瞬間の判断が重要」等の要素は、仕事の上でも大いに役立っています。

将来、チームからのJリーガー誕生を夢見て、これからも子供達を指導していきます。



山形発 未来のものづくりの第一歩

山形県では今後一層のグローバル化社会を見据え、子供達が世界の技術革新に対応できるものづくりのブランド力をPRしたいとの思いがありました。3Dプリンターは工業製品の部品の試作や研究に欠かせなくなっており、題材としてはうってつけで他県では既に工業高校に設置しています。しかし「思考力」「基礎力」「実践力」を通じ創造力の育成につなげようと県内の産・学・官が連携し、自分達で組み立てできる3Dプリンターを小中高へ導入するプロジェクトを立ち上げました。山形工場はこのプロジェクトに賛同し、LMガイドの供給を行っています。山形県教育センターの方からは「LMガイドを採用したことでプリンターの作動がスムーズになり、また音が静かになった。現在は試作段階だが、生徒さん自身で組み立ててもらい、改良を重ね独自のプリンター開発を行っ

て欲しい。そのための技術協力をぜひ、T H Kさんにはお願いしたい」とのコメントをいただきました。山形工場では、県の次世代を担う人財育成に、できる限りの協力をする所存です。



T H K製品を使用した2号機3Dプリンター